

まちづくりトーク「自治基本条例はなぜ必要？」 会議概要

日 時：平成 29 年 5 月 20 日（土）午後 2 時 00 分～4 時 00 分

場 所：逗子市役所 5 階会議室

出席者：平井市長、柏村副市長、和田経営企画部長、福本経営企画部次長、
仁科企画課主幹、橋本主事（記録）

市川総務課副主幹、矢島情報政策課担当課長、内田情報公開係長、

須田市民協働課長、東市民協働コーディネーター、

石井経営企画部参事、西広聴広報係長

市民協働推進員 8 名

社会福祉課 西平貴代美、高齢介護課 今村聡志、国保健康課 大谷美土里、

まちづくり景観課 三澤正大、資源循環課 土屋直之、

子育て支援課 伊藤英樹、保育課 上野山彩香、

療育教育総合センター 伊達政良

参加者：86 名

議事概要：

1 市長あいさつ

このまちで市民の皆さんがどういう暮らしをして、何を大切にしているのか。もっとまちを良くするためにはどんな仕組みやルールがあればいいのかを検討し、条例に明文化することにより、逗子が住みやすく魅力あるまちになると考えている。

例えば、海水浴場の問題も何を大切にするかを話し合い、厳しい条例とルールを作った。同じように、こういうまちに住みたいと目指す時に、どういう理念やルールが必要かということのを皆で検討し、まちづくりを進めるためのルールを作ろうということだ。

昨年の 8 月からワークショップを開催し、議論を重ねてきた。並行して専門家と市の職員で検討会を立ち上げ、ワークショップで出た意見を受け止めながら条例にするための検討に着手した。

一方、今年度予算を議会に提案したところ、より多くの市民が参加する必要がある、行政と議会と市民とでそれぞれがどういう役割を果たしながらこのまちをつくっていくのかということを議論に加えるべきと指摘をいただき、議会の判断として、一旦ストップがかかった。市としては多くの方と共有しながら逗子市のルールとして決めていきたいということで、広く市民の方にお声掛けして今日のまちづくりトークの開催に至った。

今、市内では様々な団体が活動をしている。この条例ができることで、これまでの活動がより円滑に、発展していくためのルールや工夫を皆で意見や知恵を出し合い、方向性を見出していききたいと思っている。

2 自治基本条例検討ワークショップ「逗子の未来協議会」振り返り

ワークショップの様子を動画で紹介した。

3 ワークショップ参加者によるリレートーク

参加者 ワークショップの参加者が自由闊達に意見交換できたことは良かった。お互いに逗子をどうしようかという思いで議論ができた。いまだに条例を作る目的がわからないことが悪いところ。夢ばかり追っているような、はっきりしない中で条例を作るということだけがどんどん進んでいるような気がした。

参加者 地方自治を強化する手段であってほしいと思っているが、この条例が何を目的にしたものかわからない。忌憚なく話し合うことができ良かったが、地域の問題点をどう解決するかという自治がいまだにきちんと捉えられていないことが課題だと思う。

参加者 逗子市民のおおらかな人柄もあって、ワークショップは悲壮感もなく独特な雰囲気でした。若い世代に逗子のいいところが残っていくといいと思っていて、その中で条例を作って豊かな暮らしを守ることができればいいのではないかと思います。

4 グループワーク「私が‘自治’について感じる事、考えること」

参加者が18のグループに分かれて、自己紹介の後、「私が‘自治’について感じる事、考えること」について話し合ってもらった。

5 感想共有、意見交換

グループワークで話し合ったことについて、全体で共有し、市長と意見交換を行った。

市長 今後、人口が減り、高齢化が進んでいく。逗子市の人口だが、昨年度は43人増えた。子育て世代が逗子に転入し、自然減を埋めてくれたが、人口減少と高齢化という大きな流れは変わらない。なぜ今条例が必要かというと、自治体も様々な活動団体も担い手が高齢化し活動が継続できるかという不安や危機感を感じている。若い世代が越してきても、地域活動に関わらない場合もまだまだ多い。若い世代が参加して地域活動、まちづくりをしていける仕組みを考えないと、この先市民のパワーが後退していくという危機感を私も持っている。若い人を含め、どうすればいいまちを作ることができるか議論し、ルールとなることで前に進んでいきたい。

参加者 自治に一番必要なのは市民の自覚や関心だと思う。そうした自覚ある市民の声に対応する市長や行政があれば、市民自治は必ずうまくいくと思う。

参加者 条例が今なぜ必要なのか疑問である。住民が安全安心、快適に過ごすルール作りは賛成だが、今日参加して意見を問われても漠然としておりわからない。様々な課題、問題があるので、個々の問題点については分科会で話し合い、分科会でルール作りをまず行う。そこで案ができて初めて条例の素案ができる。そういうところまでやらないと、このような会で意見が言えない。今日のまちづくりトークを開催するにあたり、それまでに十分な議論がなされたということなのか。

市長 地域の中で様々な問題が山積している。当然行政には各種の計画があって、個別の課題、問題は懇話会等で議論がされている。それを多くの人と共有する仕組みが十分かというと、まだまだ不十分である。皆さんが日頃感じている課題を出していただくことも、今日の一つの目的だと思うが、時間が短い中で結論が出るわけではない。そういったことを積み重ね、最終的に情報共有し、ルールを作り、行政と議会がそれを受け止めて、円滑な運営につながればいいと考える。そのための条例ということで、まだどんなものができるかも検討途上でお示しできないけれど、それを皆さんと一緒に作っていききたい。

参加者 私たちのグループでは、日常生活で抱えている問題をみんなで解決していくことが課題であると話し合った。町内会の役員の方からは、一人暮らしで困っているお年寄りへの支援等を町内会の中でどうしていくかということ等、町内会の活動内容を報告いただいた。町内会がお祭りなどで拘束すると、迷惑になってしまうというマイナス面もあるということだった。また、男性サラリーマンの参加が少ない、外国人との関わり方も課題にあがった。個々が抱えている課題をどう解決していくかが皆の関心事になっていて、そのような課題を持ちながら参加されている方が多いと感じた。

参加者 例えば、逗子の名物を創るとか、市を一言でまとめたイメージを創るとか、日本で誇る一番とか、他所と競えることをすると皆が団結し活動できると思う。条例とか大きなものはわかりにくいですが、具体的な小さいものの積み上げでいいものができるのではないか。また、昔、都市憲章の検討がされたが、そういうことを踏まえた上で、今回の位置づけをすると具体的にイメージをしやすいと思う。

参加者 今日は「まちづくりトーク」、「自治基本条例」、「自治」という3つがどう関連するかわからない。何のために集まっているのかというのが率直な意見である。ワークショップのレポートがあるならば、参加者に見てもらい、現状を説明して、自治について意見交換をするべきである。財政的に困難だという世の流れの中、行政から受けていたサービスが受けられなくなる。そこで出てくるのが自治で、市が破たんしないためにや

りましょうというこの考え方は賛成である。そのために、具体的に我々にどういうことを議論してほしいかと誘導すると盛り上がると思う。早い段階でレポートを知らしめることが必要である。また、なるべく平易な日本語で書いていただきたい。住民なのか市民なのか、住民とは何か、言葉の定義もしっかりとしてほしい。その上で議論をしないとうやむやになってしまう。

市長 市民の定義は大きなテーマである。まちをつくっていく中で、どういう人と協力して課題に取り組むか、条例でしっかりと定義し、関わる人がどういうルールのもとに力を合わせるかということを議論していく必要がある。

参加者 いきなり「自治」について議論せよと言われても何を言ったらいいかわからない。条例の話、協議会の話、自治の議論、30分のワークショップでどんな効果を期待しているのかわからない。自治にもいろいろあるが、条例の話から逗子市の自治、市民自治につながるのだと考える。自治ということを考えた時、高齢化が進み先細りしていく中で、新しいことをするには市民の力が必要、市民と行政がミックスしないと従来のやり方では解決できない、だから新しいシステムを作ろうということである。行政が議論の材料を提示しないと無意味な議論になってしまう。小学校区にしても、何のための小学校区なのか。自治会のメンバーが固定化されたり、担い手がいなかったりという中で、課題や問題は大きくなっていて、その解決のための小学校区なのだと考える。広めの小学校区で人材や頭脳を集約して問題を解決しようと。一方、行政の方で、なぜ小学校区を立ち上げるのかという共通のコンセンサスができていないため、議論が混乱してしまい、收拾がつかないということがある。今回の自治基本条例も何回かワークショップをしているのであれば、それをふまえた材料があるだろうから、その上で具体的な提示をいただかないと議論が無駄になってしまう。

参加者 議会で条例を検討するための予算が否決されたので、自治基本条例の必要性を議論したいのだと思っている。私はこの条例が必要だと思っているが、なぜ議会で条例が否決されたのか理由を教えていただきたい。3月の逗子の未来協議会の特別回で、市議会も条例の検討に参加させるという意見が市議会から出ていると言っていた。地方自治が市長と市議会との二元性である以上、自治基本条例は対立点となることが多い条例である。私は議会が条例の検討に参加することは賛成で、ワークショップに出てもらいたい。飯田市では、市議会が条例の提案をして成立したということだが、逗子でも市議会に作ってもらうということもありだと思う。もう一つ、条例を作るのはいいが、条例にどうやって魂を入れて運営するか。これは市長にお願いするしかないのだが、重要な問題だと考える。

市長 予算が否決された理由として、私としては、地域の課題がいろいろとある中で、それらが条例とどうつながるのかを多くの人と共有し、多様な意見を取り込みながら、検討していくということがまだまだ不十分だということが大きな理由と考えている。ワークショップのメンバーは夢を語りながらも、条例の形が見えない中、不安と疑問を抱えながら議論をされてきたと思う。しかし、自治の基本というからには、様々な人がまちづくりにかかわっているので、そういう人に問題提起し、そういった中での議論の結果として条例が必要だということで案を作り、議会に提案するべきだという指摘だと考えている。できるだけ多くの人に条例の意義を理解してもらい、意見をいただきながら検討するべきということである。

議員の参加の必要性については、ワークショップでもたくさんの声があった。議員からも同様の指摘があった。

こうしたことから、平成 29 年度当初予算の段階では待ったがかかり、それを受けて今日こういう形で広くお声掛けをして、条例はどういうものか皆さんと意見交換をして、次のステップに進んでいきたいということが、今日の目的であった。

議員の考え方も多様で、条例の検討に加わることにについて、あくまでも条例を審議する側としては、一定の距離を置いた方がいいという考えもあれば、自治のことだから議会も積極的に参加するべきだという意見もある。飯田市のように議会が作って議員提案した事例があるのも事実だが、逗子は逗子なりの作り方が見えてくれば良いと考えている。

参加者 議会はワークショップの予算には反対しているが、条例自体に反対しているわけではないということか。

市長 議員によって捉え方は違う。条例そのものに反対して予算を切ったわけではないという議員がそれなりに多いと思っている。

参加者 今後はどうされるのか。逗子の未来協議会はどうなるのか。

市長 まずは予算に待ったがかかっているので、6 月議会で予算を再提案する。そこで可決されなければ、また考えないといけないが、再開できるようになれば未来協議会を再開する。ただ、未来協議会だけで議論するのではなく、今日のようなトークや、住民協、活動団体等と意見交換をし、議論を重ねて条例案に発展させ、議会に提案したいと考えている

参加者 私たちのグループは、「自治」とは住みやすいまちを作ることなのではないかと、比較的素直に考えた。自治会からの参加者が多く、犯罪の少ないまちにしたいという意

見があったが、まち中に防犯カメラを付けるにしても自治会内でも様々な意見の違いがあるという議論になった。その中で、自分のできること、自治会のできること、そして市がやるべきことがあるのではないかということであった。高齢化が進む中、若い人をどう増やすかは自治会ではできなくて、市の課題である等。また、そもそも自治の問題ではなく、市から何も具体案が出ないのは、市にリーダーシップがないのではないかという意見もあった。自治会こそが市に意見するために議論し、市を突き上げるべきではないか、反対に市こそ積極的にやるべきだという二つの意見があった。私は、市が吸い上げて、どんどんと動かないと、このような会議の意味がないと考える。

市長 行政として責任をもってやらないといけないこともたくさんある。一方で地域、市民の皆さんが自ら解決できることもたくさんある。人口が減り、高齢化が進み、財政が厳しくなる中、行政サービスで提供できるものを縮小していかざるをえなくなる。今まで以上に発展、活性化するには、行政が担うことと、地域、市民が担うこと、連携してやることについて、共通理解をもって歩むことで逗子ならではの地域づくりが進むように市として取り組んでいきたい。